

# Slovenia Monthly

December 2016

vol.2-no.12

## スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年1月9日



### ～12月の主なポイント～

- 政治：**政府と公共部門労働組合の労使交渉が、9ヶ月にわたる交渉の末に合意。  
パホル大統領がトルコを訪問、エルドアン大統領との会談で対話強化と信頼回復を要請。  
スロベニアの欧州原子核研究機構(CERN)準加盟に関する合意に署名。
- 経済：**関西ペイント、スロベニアの大手塗料メーカー「ヘリオス・グループ」の買収を発表。  
政府がコペル～ディヴァチャ間鉄道第2路線建設計画における出資配分案を発表。  
スロベニア中銀、2016年のGDP成長率を0.3%増となる2.2%に上方修正。
- 治安：**スロベニア警察、ベルリンでの事件後も国内のテロ脅威度は依然として低いと発表。
- 社会：**シュコフィヤ・ロカのキリスト受難劇がスロベニア初のユネスコ無形文化遺産に登録。

### 政治

#### 【内政】

##### ●政府と医師労働組合が協定に署名【5日】

ツェラルツ保健相と医師労働組合のクシュトリン組合長は、先月22日に合意された医師の労働負担を削減する新基準の導入と、患者の待機時間削減イニシアティブを約束する合意書に署名した。ツェラルツ保健相は、協定の署名により医師労働組合との交渉再開が可能となるとの見方を示した。

##### ●国民議会がバンク・ホリデー制定を承認【13日】

国民議会は、1月2日をバンク・ホリデー(Bank Holiday)とする祝日法改正案を採択した。同祝日は、緊縮措置の一環として、2012年より祝日から除外されていたが、本年より再び祝日となる。

##### ●コパチュ＝ムラク労働相に対する解任動議の否決【14日】

半年で2度目となるコパチュ＝ムラク労働・家族・社会問題・機会均等大臣に対する解任動議の投票が行われ、賛成20票、反対53票で否決された。野党民主党(SDS)は、子供の養育権をめぐるソーシャルワークセンターの対応に誤りがあったとして同大臣を非難していた。

##### ●スロベニア政府及び両院議長年次会合【19日】

パホル大統領、ツェラル首相、ベルヴァル上院議長及びブルグレス下院議長は、第3回となる年次会合を行った。パホル大統領は、スロベニアは経済・金融危機以降は回復基調にあり、政治的に安定している今の時期に、更なる経済力の強化に向けた改革を行う必要がある旨述べた。ツェラル首相は、政府は引き続き医療制度改革に重点的に取り組み、汚職対策や安定した法の支配等の多分野にも目を向けていく旨述べた。四者は、スロベニアは安全な国であるとの認識を共有しつつも、国の脆弱性を見過すべきではなく、治安制度全体の精査が必要であると述べた。

##### ●パホル大統領の2017年大統領選挙への出馬意向表明【21日】

パホル大統領は、国営ラジオ局のインタビューにおいて、2017年の大統領選挙に出馬する意向を表明した。また同大統領は、自分の信じる目標に向かって情熱的に選挙運動を行うとしながらも、執務室で大統領の職務を完遂することが正しいと考えている旨述べた。

●政府と公共部門労働組合による労使交渉合意【21日・22日】

21日、政府と公共部門労働組合は、9か月にわたる労使交渉の末に合意に達し、段階的な緊縮措置の廃止を定める協定に署名した。

22日、国民議会は、本合意を受け、明年の公共部門の給与に対する一部緊縮措置延長に関する法案を承認し、2017年度予算における公共部門の給与に関する支出は、本年度予算に比べて5600万ユーロ増加し、一方で、公共部門における1億4860万ユーロ相当の緊縮措置が延長された。

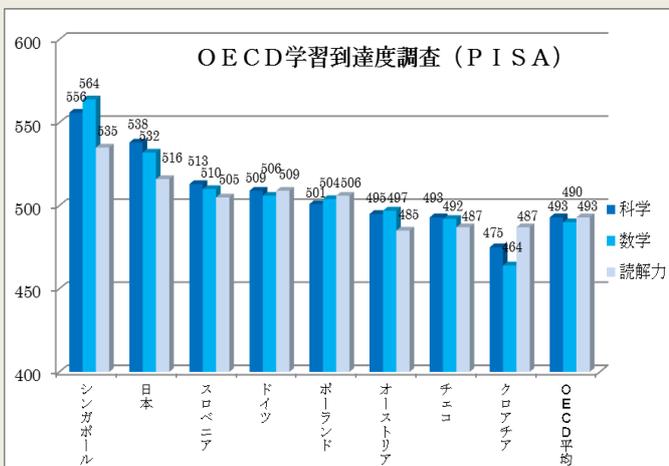
スロベニアに迫る！③7

スロベニア人は理系脳？(OECD学力調査)

OECDは、2015年の学習到達度調査(PISA: Program for International Student Assessment)の結果を発表しました。同調査は3年ごとに、OECD加盟国等の15歳児を対象に数学的リテラシー、科学的リテラシー及び読解力の分野で行われます。

スロベニアは数学的リテラシーでOECD平均の490点を大きく上回る510点を獲得し、欧州諸国内ではスイス、エストニア、オランダ、デンマーク及びフィンランドに次ぐ第5位となりました。科学的リテラシーではOECD平均の493点に対して513点を獲得し、欧州諸国内ではエストニア及びフィンランドに次ぐ高得点でした。また、読解力では2012年の前回調査より11点上昇して505点を獲得し、OECD平均の493点を上まわりました。

全体では、シンガポールや日本、欧州諸国ではエストニアやフィンランド等が高得点を獲得しました。スロベニアの学力は中東欧地域では最高レベルで、特に理系分野ではドイツやオーストリアをも上まわっています。スロベニアと近隣諸国の結果は以下のとおりです。



【外政】

●パホル大統領のヨルダン訪問【4日】

パホル大統領はヨルダンを訪問し、アブドラ国王との間で中東情勢、テロ対策、過激主義等の国際安全保障問題につき意見交換を行った。パホル大統領は、アブドラ国王に対し、ヨルダンは地域の安定に重要な役割を果たしているとし、同国によるシリア難民の受け入れを評価した。これに対し、アブドラ国王はツイッター上で、パホル大統領の訪問は二国間関係の新たなページを開くものであり、両国は小国であるが、野心的で、対外的な思考を持っている等、共通点が多くあると述べた。また、パホル大統領は、アル・ムルキ首相及び上下院議長と会談したほか、難民キャンプを視察した。

●パホル大統領のエジプト訪問【5日・6日】

5日、エジプト訪問を開始したパホル大統領は、エルシーシー・エジプト大統領と会談し、二国間関係及び中東、世界情勢等につき意見交換を行った。両大統領は、二国間関係は良好であるが、更なる強化の余地があり、特に、現在8500万ユーロ程度である貿易高は、倍増することが可能であると述べた。

6日、パホル大統領は、イスマイル・エジプト首相と会談し、インフラ、ハイテク、エネルギー、農業、食品及びロジスティクス分野での経済関係強化を中心に意見交換を行った。両者は、コペル港とエジプトとの港湾の良好な接続を踏まえ、エジプトはスロベニア企業のアフリカ進出、スロベニアはエジプト企業の南東欧地域進出に際するハブとなり得るという点で一致したほか、来年年初に二国間経済委員会会合を開催することで合意した。

●エリヤヴェツ外相のNATO外相会合出席【7日】

エリヤヴェツ外相は、NATO外相会合に出席し、世界が最早安全ではないという認識は強くなってきており、新たな治安対策の実施には更なる経費が必要である旨述べた。また、同外相は西バルカン地域の情勢は悪化しているとして、更なる情勢悪化を阻止するために新たな難民の流入を阻止する必要性を強調した。

●スロベニア・ロシア外相会談【8日】

エリヤヴェツ外相は、ハンブルグで開催されたOSCE外相会合にてラブロフ・ロシア外相と会談し、スロベニアにおける米露首脳会談の可能性につき意見交換を行った。

エリヤヴェツ外相は、ラブロフ外相の反応は現時点では「何とも言えない」というものであったが、もし第三国での開催という話になれば、既に2001年に当時のブッシュ大統領とプーチン大統領との第一回首脳会談をホストした経験があるスロベニアは、極めて適切な国であろうと述べた。

またラブロフ外相は、エリヤヴェツ外相に対し、明年のスロベニア・ロシア間の外交関係樹立25周年の機会に、スロベニアへの公式訪問の意向を伝えた。

### ●ヴァノヴィッチ・モンテネグロ大統領の訪問【12日】

ヴァノヴィッチ・モンテネグロ大統領がスロベニアを訪問し、パホル大統領と会談を行い、文化・教育分野での協力に関する協定及び2016～2017年の国際開発援助プログラムに署名した。パホル大統領は、モンテネグロはEU及びNATO加盟に向けた西バルカン地域におけるロールモデルであると評価し、最終的に両機関の加盟国となることを期待する旨述べた。また、両大統領は、ブルドー・ブリュニ・プロセスを通じた地域協力の重要性を強調し、ヴァノヴィッチ大統領は、インフラプロジェクトにおいて、目に見える成果を生み出している旨述べた。また、同大統領は、NATO加盟に向けた取り組みに関し、モンテネグロは伝統的なロシアとの友好関係を尊重しているものの、同時に地理的な要因からNATO加盟に向けて主権を行使している旨述べた。

### ●スロベニア・キューバ外相会談【12日】

エリヤヴェツ外相は、EU・キューバ間の政治協力に関する協定署名のためブリュッセルを訪問したロドリゲス・キューバ外相と会談を行った。両外相は、ビジネス機会を中心に議論し、エリヤヴェツ外相は観光及びハイテク分野が潜在的な分野であると強調し、キューバへの観光産業のノウハウの移転について関心がある旨述べた。また同外相は、キューバは、2008年にスロベニアがEU議長国を務めた際に行われた、対キューバ経済制裁の解除等の取り組みを評価しており、テレコミュニケーション、ITサービス及びデジタル化を含むハイテク分野における協力に関心を持っているとした。

### ●パホル大統領のトルコ訪問【15～17日】

15日、トルコを訪問したパホル大統領は、エルドアン・トルコ大統領と首脳会談を行い、対話の強化及び信頼の回復を訴えた。パホル大統領は、7月のクーデター未遂事件を非難し、一方でEUとトルコ間の

建設的対話が継続され、強化されるべきである旨述べた。これに対し、エルドアン大統領は、EU加盟はトルコの戦略的利益であり、トルコは欧州の重要な家族であるとして、トルコの排除は地域の不安定化に繋がるとの考えを示した。

16日、パホル大統領は、カフラマン・トルコ国会議長と会談し、両者は難民問題に関するEU・トルコ間の合意が難民の流入阻止に重要な役割を果たしているという認識で一致した。



(写真: STA/スロベニア大統領府)

### ●スロベニアの欧州原子核研究機構(CERN)準加盟に関する合意【15日】

スイス訪問したブレンチッチ教育・科学・スポーツ大臣は、ジヤノティ欧州原子核研究機構(CERN)事務局長との間で、CERNへの準加盟に関する合意に署名した。同合意の発効にはスロベニア国会の批准が必要となっている。CERNの準加盟国になることにより、スロベニアの研究者及び企業は、CERNのプログラム及び施設への完全なアクセスを得ることとなる。スロベニアは5年以内に正式加盟国になることを目標としている。

## 経済

### 【マクロ経済・統計】

#### ●中央銀行による経済観測の発表【14日】

スロベニア中央銀行は最新の経済観測を発表し、スロベニアの今年のGDP成長率を0.3%増となる2.2%に上方修正した。また、2017年及び2018年におけるGDP成長率は前回の経済観測から変更なく、両年とも2.5%としている。経済成長の要因は、堅調な外需と強い国内消費であり、これらは今後数年にわたり経済成長を主導する鍵となるとしている。雇用拡大による家計支出の増加及び財政状況の改善による投資支出の増加を受けて、内需も拡大すると

見込んでいる。

また、経済成長に伴い、2017年及び2018年において、インフレ率は1.4%上昇し、失業率に関しては、本年は8.1%、2017年は7.4%、2018年は6.8%と徐々に減少すると予測している。

### ●スロベニアはユーロ圏平均を上回る「健全な経済」【14日】

ブリュッセルを拠点とするシンクタンク Lisbon Council と German Berenberg 銀行は、2016年の「ユーロ・プラス・モニター(Euro Plus Monitor)」競争力ランキングを発表した。本調査は、ユーロ圏諸国にポーランド、スウェーデン、英国、ブルガリア、クロアチア、チェコ、デンマーク、ハンガリー及びルーマニアを加えた28カ国を対象に実施された。スロベニアは「調整の進捗度」の項目において、10段階評価中5.0を獲得し、昨年の5.3から低下したものの、ユーロ平均の3.7を上まわり、全体で9位となった。また、「経済健全度」の項目では、昨年の6.1から6.3へと評価を上げ、ユーロ圏平均の5.9を上まわり、第13位を獲得した。

### ●S&P社がスロベニアの国債価格付け見通しを引上げ【19日】

大手格付け会社のS&P社は、スロベニアの長期国債価格付けを現在のAに据え置く一方、見通しを「安定的」から「ポジティブ」に引き上げる旨を発表した。同社は、スロベニアの着実な経済成長が2017年～2019年も持続し、財政状況は徐々に正常化して不良債権の削減も進むと予測している。また、現在の国家予算への圧力にもかかわらず、スロベニアの公的債務は2017年～2019年期において対GDP比で減少し続けると見込んでいる。

### 【金融・企業関係】

#### ●関西ペイントによる塗料メーカー「ヘリオス・グループ」買収【6日】

関西ペイントは、スロベニアの大手塗料メーカー「ヘリオス・グループ(Helios Group)」社の株式100%を、同社の株主であるオーストリア企業等より買収し、完全子会社化する株式譲渡契約を締結した。今次買収は規制当局による承認を経て、2～3ヶ月中に完了する予定となっている。

関西ペイントのプレスリリースによれば、買収価格は5億7200万ユーロ(約700億円)となり、石原博・関西ペイント社長は、記者会見にて、今次買収は欧州における塗装ビジネスの発展及び拡張を目指すも

のである旨述べた。

#### ●スロベニアFDIサミットの開催【6日】

リュブリャナ大学経済学部の主催によりスロベニアFDIサミットが開催された。英国シンクタンク Legatum Institute のムザヴィザデフ所長は、同機関の発表する「レガタム繁栄指数」の詳細を説明し、スロベニアは2015年の指標では149カ国中20位であった。スロベニアは「自然環境の保護」では欧州諸国中でオーストリアに次いで高評価だが、「ビジネス環境の質」では60位であり、出席者からは本分野で進捗は見られるが、不十分であるとの指摘が出た。

ストヤン戦略研究所研究開発部長は、スロベニアは旧ユーゴ諸国のうち政治面で最も安定しているが、小国ゆえ、他国の決定や発展の影響を受けやすい旨指摘した。

#### ●コペル～ディヴァチャ間鉄道第2路線建設計画における出資配分案の発表【22日】

ガシュペルシッチ・インフラ大臣は、記者会見において、コペル～ディヴァチャ間鉄道第2路線の総事業費は修正を受けて10億ユーロを下回る見込みであり、出資配分案は、スロベニアが合計2億55百万ユーロ(全体の約25%)、EU基金が2億5千万ユーロ(同約25%)、欧州投資銀行からの借り入れが3億ユーロ(同約30%)、その他のパートナーが2億ユーロ(同約20%)を予定している旨を発表した。また同大臣は、その他のパートナーについて、現在は官官連携が検討されており、ハンガリーとの交渉の事実を認めつつ、同パートナーがコペル港の所有権を持つことは否定した。

### 治安

#### ●スロベニア国内でのテロ脅威度は依然低い【20日】

スロベニア警察は、19日に発生したベルリンでのトラック突入事件を受け、スロベニアのテロ脅威度は依然として低いとしながらも、人々の集まる場所での公共秩序の妨害や潜在的な脅威への対策に尽力している旨述べた。また、スポーツ・文化行事や新年祝賀行事を含む屋外イベントなど、多くの人が集まるイベントに際しては特別な注意を払うとし、スロベニア国内外の治安当局と継続的に協力している旨述べた。

## 社会・文化・スポーツ

### ●スロベニア最古の劇が無形文化遺産に登録【1日】

スロベニア外務省は、エチオピアのアディスアベバで開催された無形文化遺産保護に関する政府間委員会にて、シュコフィヤ・ロカのキリスト受難劇(Škofjeloški pasijon)が無形文化遺産に登録されたと発表した。今回の登録は、スロベニアが無形文化遺産条約の批准して以降、初めてとなる。2017年の委員会では伝統的なクレントのお祭り(2月号をご参照)が審査されることとなっている。

#### スロベニアに迫る！③

##### シュコフィヤ・ロカのキリスト受難劇

今回、シュコフィヤ・ロカのキリスト受難劇(Škofjeloški pasijon)がスロベニアの無形文化遺産第一号として登録されました。この受難劇は四旬節とイースターの時期に上演され、スロベニアで現在も上演されている最古の劇です。数百人もの演者がシュコフィヤ・ロカ市の旧市街を行進し、13のシーンからなる受難劇を披露します。

シュコフィヤ・ロカのキリスト受難劇は、1715年から1727年の間にロブレツ・マルシッチ(Lovrenc Marušič)神父によって書かれ、1721年の聖金曜日(Good Friday)に初めて上演されました。この受難劇のオリジナルの脚本は、完全な形で保存されているスロベニア語の脚本としては最古のものです。ハプスブルクのヨーゼフ2世による演劇・劇場改革により中止されていましたが、1936年、展覧会行事の一環として学校の校庭で上演され、1999年からはオリジナルの設定で数年ごとに行われています。最近では2015年に上演され、今回は2021年に予定されています。



(写真:シュコフィヤ・ロカ受難劇事務局ホームページ)

### ●リオ五輪柔道金メダリストがスロベニア年間スポーツ大賞を受賞【13日】

スポーツジャーナリスト協会は、2016年の年間スポーツ大賞(Athlete of the Year Award)を発表し、リオ五輪柔道金メダリストのティナ・トゥルステニャク(Tina Trstenjak)選手とスキージャンプの英雄、ペテル・プレウツ(Peter Prevc)選手が受賞しました。

トゥルステニャク選手は今回初めての受賞で、ソチ五輪で2つの金メダルを獲得したスキージャンプのティナ・マゼ選手とロンドン五輪柔道金メダリストのウルシュカ・ジョルニル選手に続き、個人種目の五輪金メダリストとしては3人目です。プレウツ選手は4年連続の受賞を達成しました。

また、団体種目では、男子アイスホッケーチームが選ばれました。同チームはソチ五輪で7位に入賞しており、既に出場を決めている2018年の平昌五輪でも活躍が期待されています。

## 発見！スロベニア

### スロベニアのそば文化

遠く離れた日本とスロベニアでは食文化にも大きな違いがありますが、実は意外にもそば（スロベニア語では「アイダ（ajda）」）文化が根付いているという共通点があります。中東欧諸国では炊いたそばの実「カーシャ」を付け合わせとして添えることがあります。スロベニアのそば料理の種類は豊富です。



(写真: <http://eko-generacija.org/?p=2352>)

#### スロベニアのそば料理の歴史と多様性

もともとそばは13世紀にモンゴル人によってアジアからロシアにもたらされ、14世紀にスロベニアを含むバルカン半島にも広がりました。春に育つ「プラシュナ・アイダ（prašna ajda）」と秋に育つ「ストルニシュチナ・アイダ（strniščna ajda）」がありましたが、多くの穀物の時期が過ぎた頃に種まきが行える秋育ちの品種が好まれ、普及していきました。

スロベニアのそば料理は、そば粥、そばがき、餃子風など様々で、スープの具やデザートにも入れられます。スーパーではそば粉の練り込まれたそばパスタも売られています。最近ではそばパンが広く普及しており、そば粉の生地のみとまりをよくするため、大麦、じゃがいも、きび、豆などを入れることがあります。



(写真: <https://www.bodieko.si/ajdov-kruh-z-orehi>)

一方で、地域や季節ごとの特別なそば料理もあります。スロベニア北東部のプルレキヤ（Prlekija）地域ではそばのポガーチャ（pogača、円形のちぎりパン）やそばのラビオリが食べられ、いくつかの地域ではそばのポティーツァ（potica、スロベニアの伝統的な焼菓子）をイースターや新年に食べる習慣があります。また、スロベニア北東部のシュタイエルスカ地方では、草刈りなど農作業で人手が必要な時期にそばのシュトウルクリ（štruklji、カッターチーズをクレープ風生地で渦巻き状に包んだ料理）が振る舞われていました。

かつてそばは一般的に庶民や貧しい人々向けの料理でしたが、近年では主に健康への効果からスロベニア料理として復活し、そば畑の面積も拡大してきています。



(写真: <http://www.bizeljisko.si/bizeljiski-ajdov-kolac/>)

#### そばシンポジウムの開催

みなさんはそばの国際会議である「そばシンポジウム」があることをご存じでしょうか。1980年、第1回そばシンポジウムがイヴァン・クレフト（Ivan Kreft）リュブリャナ大学生物工学科教授とその同僚によってスロベニアで開催され、国際そば研究協会（IBRA: International Buckwheat Research Association）が設立されました。

それ以降、そばシンポジウムは、中国、韓国、ロシアやカナダなど、そば文化のある世界各国で3年ごとに開催され、日本でも過去2回、長野県と宮崎県で開催されています。2013年には33年を経て再びスロベニアに戻り、第12回そばシンポジウムがラシュコ市で開催されました。本シンポジウムは、そばの研究者、そば産業界の代表、製粉業者、そば農家など、そばに関係する人々が集まって、最新の研究の成果や各国のそば文化を発表し、知見やノウハウを共有する場となっています。

## マキーフン「日本むかしばなし」の上演

12月3日～6日にかけて、演劇プロジェクト集団マキーフンによる「日本むかしばなし」が計4回上演され、当日は多くの来場者で溢れるほどの盛況ぶりでした。

今回の「日本むかしばなし」プロジェクトは、新国立劇場・演劇研修所出身の女優であり人形作家でもある美月泉(みつき いずみ)氏(スロベニア在住)と同研修所出身で現在日本で女優として活躍する藤井咲有里(ふじい さゆり)氏が、「スロベニアで暮らす日本人の子供達やスロベニア人の子供達に日本の昔話を届けたい!」という思いから立ち上げた演劇パフォーマンスです。そして、その二人に、同研修所出身で現在英国在住の俳優・西村壮悟(にしむら そうご)氏が加わって、大人も子供も楽しめる迫力のある「日本むかしばなし」に仕上がりました。さらに強力な助っ人として、琴演奏家の小島奈津子(こじま なつこ)氏が、「日本むかしばなし」に相応しい曲や効果音の演奏によって、上演作品をさらに盛り上げてくれました。

今回上演された作品は「三枚のお札」と「節分の鬼」。いずれも冒頭に、物語に出てくる日本の言葉や意味をスロベニア語で簡単に説明した後に、日本語とスロベニア語を織り交ぜながらパフォーマンスが行われました。

3日と4日は親子向けに上演され、上演後には、鬼の面をつくり豆まきも体験するワークショップが開催されました。5日と6日は大人向けに市内のカフェバーで開催され、親子向けの時とは異なる演出で、会場を湧かせていました。

(写真提供:Touhou Association)



大人向け「三枚のお札」より



大人向け「三枚のお札」より



上演後の子供向けワークショップ



親子向け「節分の鬼」より



琴奏者・小島氏

## 在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: [info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

Web: [http://www.si.emb-japan.go.jp/website\\_jp/index\\_j.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html)

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

### ★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

当館のフェイスブックでは、スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせやレポート、スロベニア事情等の情報を随時発信しております。「いいね！」ボタンで当ページのフォローをよろしくお願いします。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

### ★当館ホームページに「もっと知りたい！スロベニア」を開設しました！

この度、ホームページに当館作成のスロベニアの政治・経済に関する資料や地方都市ガイドを掲載した「もっと知りたい！スロベニア」を開設しました。トップページから移動できますので、ぜひご覧ください。

### 【文化行事のお知らせ】

●日本の童謡、日本昔話の紹介行事

リュブリャナ市が支援する子供向けの文化芸術祭「BOBRI」において、日本の童謡や日本昔話が紹介されます。各行事とも親子で楽しめるワークショップがあります。

#### 【日本の童謡 ～ どんぐりコロコロ】

日時: 1月26日(木) 17:00～18:00

会場: Slovensko mladinsko gledališče(住所: Vilharjeva 11, Ljubljana)

#### 【日本昔話 ～ 紙芝居「節分の鬼」】

日時: 2月4日(土) 10:00～11:30

会場: Slovenski gledališki inštitut(Mestni trg 17, Ljubljana)

いずれも入場無料

公式ウェブサイト: <http://bobri.si>

### 【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

### ●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

たびレジには「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

### ●すり被害が急増しています！

最近、リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が非常に多く発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、フェスティバル会場周辺、リュブリャナ鉄道駅周辺、一般のレストラン内、宿泊ホテルのレストラン内などです。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入れないようにし、何か異変を感じたらすぐに確認してください。